

動と授業や学級の指導を混同してるとか…、そのことで、3年生の部員同士の関係も悪くなっているようで…。」

佐藤先生は、びっくりしました。自分は親しみを込めて生徒たちと接し、生徒も自分についてきていると思っていたし、大会でもそれなりの成績をおさめていて、指導には自信を持っていたからです。

「いつも真面目に頑張る姿。キャプテンとして部をまとめようと友達との間で悩む姿。キャプテン失格と言われ豹変してしまった姿。」
いくつもの鈴木君の姿が浮かび、佐藤先生の頭の中で一つに結びついていきました。

「鈴木君の爆発は、自分の指導と…」
佐藤先生の思いは確信となり、そして、不安と
なってどんどん大きくなっていきました。

4 母親との懇談

前日電話で話をしていた佐藤先生は、翌日の放課後学年主任と共に、鈴木君、そして母親と一緒に話し合いの場を持ちました。

重苦しい雰囲気の中での話し合いとなりました。佐藤先生は、鈴木君の学校での出来事を詳しく話しました。

「何でうちの子が突然そんなことを……、やさしいいい子だったのに…。」
母親がつぶやくと、沈黙が続きました。

佐藤先生は、今の自分の思いを、勇気を持って心に訴えるように鈴木君に話し出しました。

佐藤先生；先生、今回のことについて考えたんだ。いつも真面目な君がどうしてって…。

鈴木君；……。

佐藤先生；最近、部活動のことで友達とトラブル

ルがあったんだよね。キャプテンとして苦勞してたのも知らないで、授業に部活動のことを持ち出して心ない言葉を言ってしまって…、すまなかった。

鈴木君；…先生。

佐藤先生と涙声で話し出した子供を見つめながら、母親は、「子供に何もしてあげていなかった自分」を感じていました。そして、思い出したことを話し始めました。

「思い返すと、ここ1週間ぐらい元気がなかったように思います。2、3日前は、部活動のことで困っているとされたのに、キャプテンなんだからしっかりしなさい、と話を聞いてあげませんでした…。」

ここでの話し合いは、子供のためにと仕事に打ち込んできた母親にとって、親子関係を振り返る機会となりました。

そして佐藤先生にとっても、家庭でも心を受け止めてもらえず、一人苦しんでいた鈴木君のことがわかり、生徒のおかれている状況を深く考えさせられた時となりました。

5 新たな取り組み

佐藤先生は、鈴木君の今回の出来事は、「生徒一人一人を見つめ理解しようとせず、教師側の思いだけで指導してきた結果だ」と振り返りました。そして、生徒を緊張させ、きちんとさせること以前に、安心感を持たせ、自分の心を表現できるようにしていかなくはと考えました。

まず佐藤先生は、部活動では悪いところを指摘するばかりになっているのを、「よさ」や「頑張り」を見つけることに努め、積極的に声